



至誠の泉

甲斐市立双葉中学校
学校だより
発行 校長 輿石 信
令和5年度 第13号
2023.12.21

社会のあり方を考える2



前号の続きです。

世界から貧困をなくすため行動

◇ 世界には貧困で困っている人がたくさんいる。一日に衣・食・住を含め

て200円以下で生活している人たちが約7億人もいる。これは世界人口の約10%に当たる。このことは日本で何不自由なく暮らしている僕にとって衝撃的な事実だった。そこで、僕はなぜ貧困が生まれるのか調べてみた。そこには貧困の悪循環というものがあった。貧困のため教育を受けられないと、安定した仕事につけない。そのために、子どもも貧困から抜け出せなくなるということが起きるのだ。◇ それならば、子どもに教育を提供することが一番の改善策だと考えた。しかし、僕は、家庭を助けるために働かなければならぬ子どもが大勢いて、その親も働き手として子どもを必要としている現実があることを知った。この現実を変えるためには、親の教育への理解と安定した収入を得るためのサポートが不可欠ではないか。親の教育への理解を深めるためには、親の居場所づくりや、安定した収入を得るために必要な技術の習得などが大切である。◇ 貧困から抜け出すための好循環を作り出すためには、今以上の他国の支援はさることながら、今僕にできることとして、貧困の現状を知り、節水や節電を心がけること、衣類や学用品などの提供や募金活動などを実行することが必要だと感じた。僕は格差のない平等な社会が一日でも早く訪れることを願い、これからも考え続け、行動していきたいと思う。(O・Sさん)



きれいな環境へ意識持って行動

◇ 今、社会は有害なエネルギー、つまり二酸化炭素を排出するエネルギー

を使うことが少なくなってきた。が、原子力発電のように、クリーンと言われているエネルギーによって、環境や健康に大きな被害が出ているとも言われている。そこで、山梨で有効なエネルギーについて考えてみた。◇ 山梨では太陽光発電施設が多く建設されている。他にも山梨では水力発電も有効ではないかと思うのだ。山梨は山が多くあり、高低差があるので、水が高い所から低い所へ流れるのを利用できるのではと思ったからだ。実際に今ある水力発電所を調べたところ、県営の水力発電所は9月1日現在28カ所で、多いとはいえない。僕は山梨では水力発電が有効だと思うので、水力発電所を増やすべきだと考える。◇ 環境をクリーンにするために僕の学校でできることは、今の環境についてや、それに対する活動をのせたポスターを作り、掲示することだと思う。学校中のみんなが意識をもって、行動することが大きな力を生むと考える。水力や太陽光などの再生可能エネルギーを利用しようという僕の意見が、少しでも社会や山梨に貢献できればうれしい。(K・Mさん)



3Rを意識してごみ問題解決へ

◇ SDGs (持続可能な開発目標)17の目標の中の「つくる責任 つかう

責任」について考えてみました。この目標を意識することで、資源を再利用することや、ごみを減らすことができます。限られた資源の中でも人々が生活していける社会にすることは、持続可能な社会をつくることにつながります。プラスチック製品は1年間に約3億トン作られています。その1割ほどしかリサイクルされていません。プラスチックごみの大部分は埋め立て地に埋められています。ごみを埋める場所は、このままではなくなってしまう可能性があります。また、海に流れつくプラスチックは毎年1200万トンあり、海洋生物に悪い影響を与えてしまいます。◇ これらの問題を解決するためには、3Rを意識することが大切だと思います。使い捨て製品の使用を減らすなどの「リデュース」、使い終わった物でもくり返し使う「リユース」、プラスチックごみを「リサイクル」することが必要です。◇ 学校でできる3Rの取り組みもあります。例えば、使い捨ての製品を使わないことです。特に給食や清掃で、使い捨ての製品が使われていると思うので、くり返し使えるものを使うようにすると思います。また、リサイクルを呼びかけることもいいです。3Rを意識することで、ごみによる問題を解決できます。皆さんも、さらに3Rを意識してください。(K・Yさん)



○ 改めて、SDGsとは？

「SDGs」という言葉を最近よく耳にします。皆さん誰もが聞いたことがあると思います。

「SDGs」とは、Sustainable Development Goals の略で、日本語に訳すと、「持続可能な開発目標」となります。これは国連に加盟する 193 のすべての国々が「未来の世界・地球がこうなってほしい」という思いを込めて作り上げた、今、取り組むべき世界的規模の課題で、2030 年を達成期限にしています。内容は、17 のゴール（大目標）とその下にある 169 のターゲット（小目標）からなっています。

<17のゴール（大目標）とは>

- | | |
|----------------------|----------------------|
| 1 貧困をなくそう | 9 産業と技術革新の基盤をつくろう |
| 2 飢餓をゼロに | 10 人や国の不平等をなくそう |
| 3 すべての人に健康と福祉を | 11 住み続けられるまちづくりを |
| 4 質の高い教育をみんなに | 12 つくる責任 つかう責任 |
| 5 ジェンダー平等を実現しよう | 13 気候変動に具体的な対策を |
| 6 安全な水とトイレを世界中に | 14 海の豊かさを守ろう |
| 7 エネルギーをみんなにそしてクリーンに | 15 陸の豊かさを守ろう |
| 8 働きがいも経済成長も | 16 平和と公正をすべての人に |
| | 17 パートナリシップで目標を達成しよう |

<SDGsが目指すもの>

現在の世界は、貧困、人種差別、環境破壊など、様々な問題に直面しています。こうした地球規模の問題を解決するために「誰一人取り残さない」という理念のもと、SDGs の 17 のゴールは作られました。弱い人を踏みつけにして取り残したり、自分たちだけが先に進んでしまうことなく、立場が違っていても、お互いを理解し、共に歩いていく。そして、誰もが差別なく、世界中の人々が「みんな幸せな世界」を実現していくことを目指しています。



<2030年の社会の主役はみなさんです！>

SDGs のゴールとなる 2030 年に皆さんは、高校や大学を卒業し、20 代を迎えます。まさに社会の主役となる年代です。近未来の社会の創り手として、中学校年代の今、SDGs に関心を持ち、できることを考え、行動に移すことが、あなたにとっても、世界のどの国の人にとっても、過ごしやすい社会の実現につながります。そして、SDGs について考えることは、あなたの物の見方・考え方、視野を広げることになります。

中学校時代は、社会でよりよく生きていくための素地や土台を作る時期です。学校を出て就職した人を一般的には社会人と呼びますが、「中学生」も社会を構成している一人です。そういった意味ではすでに「社会人」であると言えます。だからこそ、中学生であっても、自分が生活している環境(社会)に目を向け、何が問題であり課題であるのか、そしてその問題や課題に対し、自分は何ができるかを考え、行動していくことは、より主体的に自分の人生を生きていくことにつながります。そして、双葉中の皆さんには、そうあってほしいと思っています。ぜひ、現代の社会を考える窓口として、SDGs について関心をもってください。図書室にもSDGs 関係の本が何冊もあるので、興味のある生徒は手に取ってみてください。また、冬休みを使って、興味をもったSDGs の目標について調べてみるのもよいと思います。

○ 本校でも取り組んでいます。これからも取り組んでいきましょう。

今年の生徒活動の三本柱の一つの柱 2「翔る」(かける)の中の“委員会との連携活動”の中に、SDGs のことが取り上げられています。各委員会と生徒会が協力し、それぞれの委員会に合った内容のSDGs の活動を行うことで、学校全体の環境に対する意識を向上させていくことをねらいとしています。

ボランティア委員会のペットボトルキャップ回収、アフリカ救援米、赤い羽根の共同募金、給食委員会の食品ロスについての呼びかけや残飯量調査などがSDGs の活動にあたります。

<SDGsは誰もが取り組めるもの>

「全世界的な規模の課題なんて大きすぎて自分一人では何もできない」と思う人もいるかもしれませんが、しかし、今号と前号で紹介した作文の中にあつたように、自分の今の生活をSDGs の 17 の目標の視点で見つめ直すと、必ずできることが見つかるはずです。地球規模の問題だからこそ、一人一人ができる小さなことに多くの人が長く取り組むことが必要です。「Think Globally Act Locally」(地球規模で考え、足元から行動せよ)という言葉がありますが、SDGs の取り組みにはまさにこの考えが必要です。

本校の生徒会でも既にSDGs の取り組みを行っていますが、ぜひ、この取り組みを来年はもっともっと大きなうねりにして行ってほしいと思います。